

かほく市史編さん調査概報

新発見！市内のお宝 No. 2

龍賢寺（白尾）の「転び切支丹」関連文書（仮称）

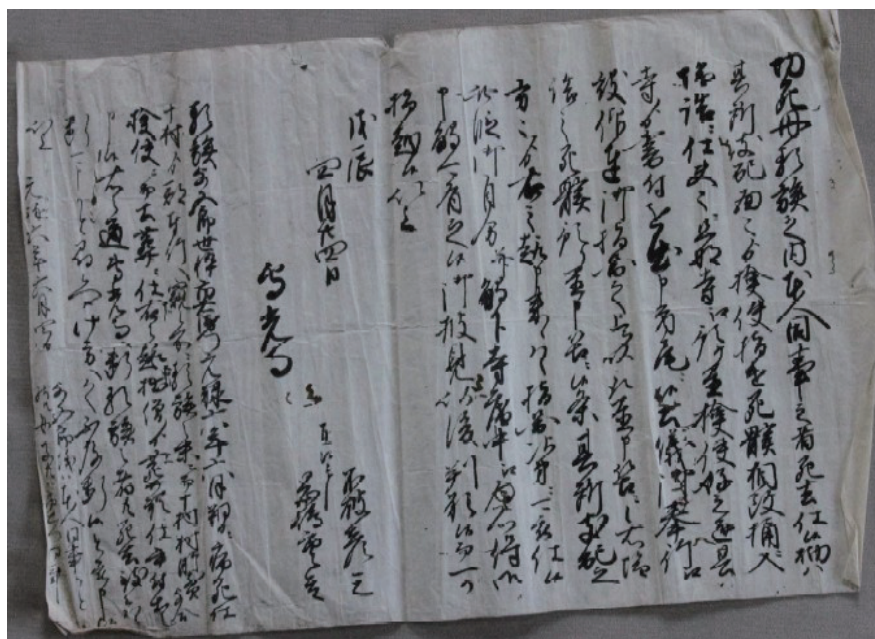
かほく市史編さん調査により、白尾の龍賢寺にて、「転び切支丹（キリシタン）」に関する文書が新たに確認されました。

この文書は、複数で構成されており、時代は江戸時代のものであります。内容は、「転び切支丹」の死後の取り扱いや葬送に関することを読み取ることができます。

そもそも、「転び切支丹」とは、キリスト教徒だった人たちの子孫を指しています。そして、江戸時代はキリスト教を信仰することが禁じられていた時代でもあります。そのため、市史編さんの委員・先生方からは、このような文書が残ることそのものが稀であり、全国的に見ても希少な文書であると評価しています。

一部ですが、その内容を紹介すると、キリスト教徒の子孫が亡くなった場合、すぐに葬儀を行うのではなく、加賀藩へ報告し、どうするかを伺いを立てています。また、遺体を塩漬にして安置し、遺体を検分してから、土葬するよう命じている内容が読み取れます。加えて、このような一連の流れが、子孫が絶えるまで続けていたことが分かります。

今まで知られていなかった当時の葬送や宗教政策の一端がわかるため、現在も市史編さん委員・先生方が調査・研究をしています。多くの情報を持った貴重な資料です。



龍賢寺（白尾）の「転び切支丹」関連文書（仮称）

※仮称は、まだ正式な名称が決まっていないため（R6.5月時）

※「切支丹」は当て字で、正確には「支」の箇所には「死」を当てていた